

第4章 霧ヶ峰再生のための基本計画

この計画は、100年後の子孫に美しい霧ヶ峰を手渡すため、現段階における検討を基に霧ヶ峰自然環境保全協議会がとりまとめた霧ヶ峰再生のための基本計画である。

今後、この計画の内容を諏訪地域のみならず広く全国に発信し、多くの人の理解と参画を得ながら計画を推進していくものである。

1 基本計画の構成と概要

(1) 基本計画の構成

霧ヶ峰再生のための基本計画(以下「基本計画」という。)は、次の3つから成る。

霧ヶ峰保全再生計画

草原、湿原、樹叢をはじめとする霧ヶ峰の自然環境の保全再生のための計画

霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想

霧ヶ峰を魅力ある“彩り草原空間”とするための景観形成、施設整備及び霧ヶ峰の保全と利用を両立させるための対策等に関する基本構想

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画

霧ヶ峰の特性を生かしたエコツーリズムモデルの構築及び霧ヶ峰の情報発信等に関する計画

(2) 担当作業部会

基本計画は、平成20年度において3つの作業部会で検討がなされた内容を取りまとめ、霧ヶ峰自然環境保全協議会で合意したものであり、担当した作業部会は、それぞれ次のとおりである。

霧ヶ峰保全再生計画： 「草原」「湿原」「樹叢」保全再生部会

霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想： “彩り草原空間”形成・施設整備部会

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画： 霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築部会

(3) 3要素の相互関連

前述のとおり霧ヶ峰の自然は、人の活動との長い関わりを通じて形成されてきた。霧ヶ峰独自の貴重な自然を保全するためには、草原、湿原の保全再生活動等を通じ、人が関わり続けることが必要である。今後、多様な主体の参画を得ながら保全再生を図っていくものであるが、土地所有者や観光事業者、地域住民など霧ヶ峰と直接つながっている人たちの生業に裏打ちされた経済的体力や参加意欲が減退すれば、人と霧ヶ峰の関わりが失われ、保全再生活動の持続力が大きく損なわれることになる。したがって、霧ヶ峰の自然の保全再生と利用は密接不可分のものであり、霧ヶ峰の再生は、自然の保全再生と地域経済(観光)の活力の持続・再生があいまって実現されるものである。

それを着実に推進するため、基本計画は3つの部分から成っている。

の霧ヶ峰保全再生計画は、100年後の子孫に美しい霧ヶ峰を手渡すための最も重要な計画である。これにより草原、湿原、樹叢等の保全再生を進め、霧ヶ峰本来の自然環境を未来に残すことを目指す。

次に、霧ヶ峰保全再生計画の推進により自然資源の価値と魅力がますます高まる霧ヶ峰に、多くの人々が訪れ、その魅力を満喫し、霧ヶ峰への理解を深めることは、霧ヶ峰にとっても必要なことである。そのため、の霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想により、霧ヶ峰の自然、歴史・文化資源の魅力や利用者の利便を高め、霧ヶ峰をますます多くの人を引きつけ、繰り返し訪れてみたい場所とするための景観形成、施設整備を進める。

あわせて、観光による霧ヶ峰の利用は、常に持続可能なものでなければならない。そのため霧ヶ峰における施設整備は、同時に自然への負荷を軽減させるものである必要がある。それは、施設というハードの整備だけでなく自然への負荷軽減のためのソフト対策が伴って実現される。の霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想は、この部分も受け持っている。

さらに、保全再生される霧ヶ峰の美しい自然や歴史遺産を活かし、多くの人に霧ヶ峰により深く親しんでもらいながら、自然への共感・理解や保全再生活動への共感・理解を促進するための手段として、エコツーリズムを活用する。そして、霧ヶ峰ならではのエコツーリズムを展開するため、の霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画がある。エコツーリズムの推進には、エコツアーの多様で魅力的なコース・プログラムを開発・活用することにより特定の季節や場所に偏らない利用客の受入れを促進し自然への負荷を軽減する効果、自然への理解促進の効果、保全再生活動への参加促進効果といった自然環境保全に役立つ側面と、霧ヶ峰の観光の魅力と付加価値を高め、地域経済再生に役立つ側面とがある。

また、霧ヶ峰を訪れるのは、エコツアーに参加する人だけではなく、ガイドを受けずに思い思いに霧ヶ峰を楽しむ人が多い。エコツアーに参加する人にも参加しない人にも、それぞれに霧ヶ峰を満喫し、その自然と歴史・文化を理解してもらうためには、

の霧ヶ峰保全再生計画を通じて霧ヶ峰の自然の保全再生が進み、霧ヶ峰の魅力がより高まること、また、の“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想を通じて景観や施設が向上し、霧ヶ峰がより快適で利用しやすくなることも必要である。

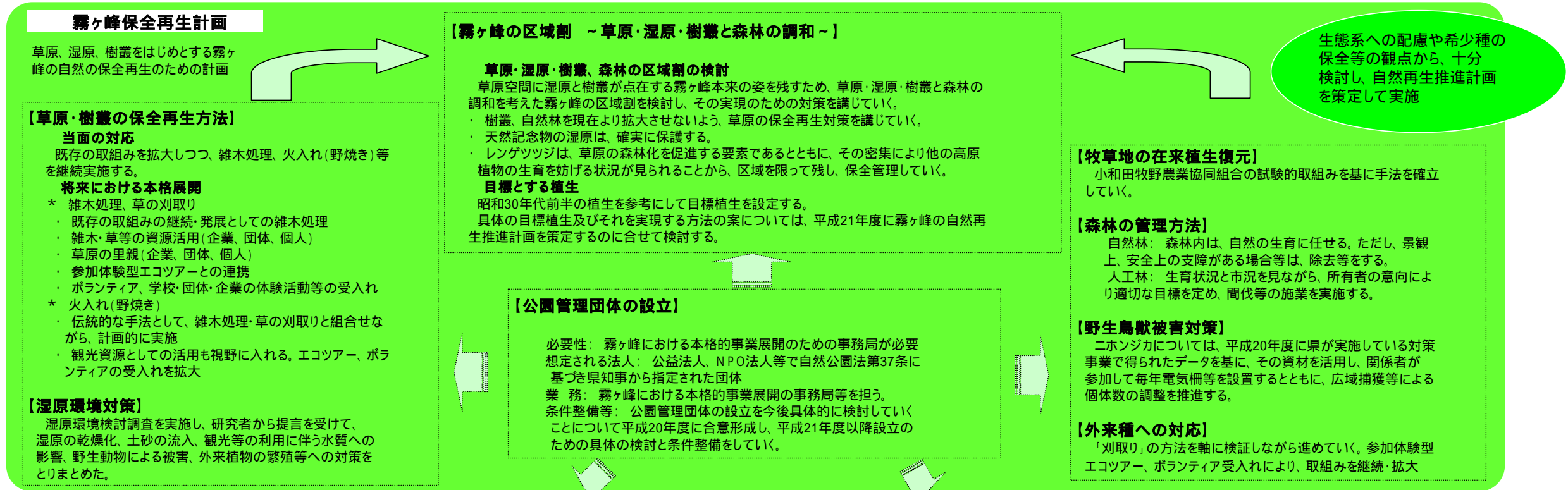
このように基本計画の3要素は、相互に関連するものであり、戦略的に組み合わせるべきものとして構成した。

特に近世以降、霧ヶ峰は常に人の生業や経済活動とともにあり、その結果独自の自然が形成されてきた歴史がある。今後、3つの要素が融合し発展していく中で、霧ヶ峰の自然や歴史・文化と新しい経済活動との融合が生まれ、それによって霧ヶ峰を保全再生し、将来に伝える活動がより力強く、持続的なものとなることを望む。

(4) 基本計画の概要

本章の2以下で詳述する基本計画の概要を32ページに掲載した。

100年後の子孫に美しい霧ヶ峰を手渡すために『霧ヶ峰再生のための基本計画』の概要



霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想 霧ヶ峰の景観形成、施設整備及び霧ヶ峰の保全と利用を両立させるための対策等に関する基本構想

【霧ヶ峰を訪れる人に感動を与え、自然・歴史への理解を促進することにつながる施設整備】
 基本的考え方：霧ヶ峰が直面する課題対応のために必要な施設整備及び質の高い施設整備のための視点を整理
 整備すべき施設：霧ヶ峰で整備すべき施設を優先順位付けし、整備主体・手法別に整理

【魅力的な景観形成】
 霧ヶ峰に「行ってみたい」と思わせる最も重要な要素である景観を魅力的なものにするため、10の視点を整理

【案内板、看板等の統一デザイン】
 箇所ごとに整備の目的・ねらいを明確にし、環境省の仕様標準を基にして霧ヶ峰に適するものを考える。
 統一デザインは、今後新規に設置するもの及び建替え等で更新する場合に適用する。

【案内板、看板等の設置箇所】
 基礎的な整備必要箇所を図示し、計画的に設置していく。

【自動車渋滞対策】
 混雑の度合いに応じて、利用分散、シャトルバス、駐車場対策等を組み合わせた渋滞対策を検討、実施していく。

【ペット持込み対策】
 ペット好きな人もペットが苦手な人も快適に過ごせる霧ヶ峰にしていくため、「地域ルール」の合意形成を行った。
 具体的には、狭い遊歩道及び湿原沿いをペット持込みを制限する場所とし、看板設置などにより理解を促進する。

【ごみポイ捨て対策】
 自然環境の保全と地域美化の推進のために講じていく対策を整理

【自然への負荷軽減のための留意点】
 施設(ハード)整備だけでなく、自然負荷軽減のソフト対策を併せて実施していく。

【利用者負担のあり方】 … 利用者に目的等を十分説明しながら
 霧ヶ峰の保全再生と施設の整備・維持管理に当てるため、次のような方法を念頭に第一段階の設計をしていく。
 霧ヶ峰の利用に対する協力金等：募金箱の設置、エコツアー参加者が支払う「霧ヶ峰保全協力金」等
 施設の利用に関する負担金：新設するトイレへのチップ制の導入、可能なものについて駐車場の有料化

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画 霧ヶ峰の特性を生かしたエコツーリズムモデルの構築及び霧ヶ峰の情報発信等に関する計画

【霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置及び対象客】
 霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置：霧ヶ峰独自の機軸を明確にする。草原を基にした霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる“安らぎ”や“安心感”を生かしたエコツーリズムの展開。
 知識だけでなく、「自然への共感」「人への共感」「自分への共感」を通じ日常生活のエネルギーを得られる旅
 エコツアーの対象客
 * 核になるプログラム：少人数グループ(霧ヶ峰に滞在して、その空間にゆったりと身を置き満喫したい人)
 * 核になるプログラムの特長を生かしながら提供する派生型のプログラム：修学旅行、小中学生の自然学習等

【霧ヶ峰インタープリテーション指針】
 霧ヶ峰でインタープリテーションを実施する際の心構え、態度や安全の確保、知識・技術の習得・向上等についてインタープリターが共有すべき事項を整理

【季節や日数に応じたコース・プログラムの例示】
 エコツアー実施団体が創意工夫、切磋琢磨しながら構築・提供するプログラムの参考素材として、次の視点で例示
 ツアー参加の目的：自然・歴史を知る、訪ねる/参加・体験する
 ツアーで得るものの深み：霧ヶ峰と出会う/霧ヶ峰に分け入る/霧ヶ峰を極める

【エコツアーの実施体制】
 当面对応
 関係者の協力の下、霧ヶ峰の3つのビジターセンターの連絡組織である霧ヶ峰ビジターセンター協議会等が、各ビジターセンターでの情報提供、エコツアー実施団体の相互連携、インタープリター募集情報の提供等のサポートをする。
 本格的な展開
 公園管理団体の設立及びエコツアー実施団体等の連絡会議設置に基づく体制確立と事業実施を検討する。
 エコツアーの健全な発展につながる料金設定
 良質なプログラム及びインタープリテーションを提供、それに見合った対価を得て展開することを各団体の共通認識に

【情報提供、情報発信体制】
 霧ヶ峰のエコツアーの全国発信のための基盤整備としてのポータルサイト開設の検討
 本格的な展開においては、旅行代理店等に対する営業や旅行代理店販売員を対象にしたモニターツアー等を実施する。
 特別企画の実施とマスコミへの発信、環境省主催の「エコツーリズム大賞」への挑戦等を通じ、マスコミ露出機会拡大
 ビジターセンターの体制強化、年間を通じての総合的情報提供等のため、中核的ビジターセンターの運営を公園管理団体が行うことを検討する。